

## 第 8 回下水道政策研究委員会での委員意見の論点整理

## ■ はじめに、背景、各主体の役割

- 「はじめに」に、誰にどこを読んでもらいたいかを加えると、使いやすい。
- 「背景」では、まず下水道がない社会を想像できるのかという問いかけや下水道の意義から書くべきである。
- 水循環基本法は下水道と関係する法律なので、下水道を考える中で、水循環基本法とのリンクを「背景」に書くべきである。
- 成長戦略において、資源回収、再生水利用、ノロウィルスの発見など、国内の他分野に対して下水道がどのような役割を果たし、役立っているか書くべきである。
- 国民や市民が支えてこそ、下水道は役割を果たせるものなので、下水道利用者にはどういう役割を果たしてほしいのかということを書くべきである。
- 料金改定や予算の確保のためにも、利用者（国民）も下水道の当事者の一人であることをビジョンの目的の中で強調すべきである。
- 今回のビジョンの大きな柱は他分野との連携であり、関係主体の役割の中に、河川・都市計画など他分野と一緒にやるということを下水道から発信すべきである。
- 補完・支援・協働の箇所、各主体の具体的な役割を明確に記述した方がよい。

## ■ アセットマネジメント

- 利用者に使用料等の適正な受益負担を求めるには、議会・住民理解が必要不可欠であるため、容易で的確な財務状況の把握を可能とする会計インフラの整備が必須である。
- 今後の支出額と収入額のバランスを考慮した健全な経営指標の目標を設定し、損益情報も加味した目標達成・水準維持を念頭においた経営計画の策定が重要である。
- 持続的な下水道サービスを確保する際に、料金の問題は避けて通れないので、それに対応する考え方を示してもよいのではないかと。
- アセットマネジメントには会計が必要であり、導入技術を正当化するために会計的な準備として、当該技術を導入するのにかかる費用を計画に書ければベストである。
- 事業管理計画を広域的なエリアでつくる、補完者と連携して作成するなど、実施すべきことについては踏み込んだ対応策を打ち出すべきである。
- 事業管理は情報がベースとなるので、情報は、人・モノ・カネに準ずる概念である。データベースや I C T より上位の概念レベルの言葉で表現すべきである。
- データベースを作るだけでなく、そこにコスト評価のようなベンチマーキングができるデータベースの構築についてしっかりと書き込んでいただきたい。
- 国土交通省がベンチマーク手法を用いて地方自治体の下水道管理を持続させようとしているという強いメッセージを出すべきである。

## ■ 国民理解

- 国民が下水道を意識するのは災害時と水辺環境がよくなっていくときであり、水辺環境の改善について特区をつくるなど P R していくことが重要である。
- 国民の理解には、危機感だけではなく、自分の行動が、東京湾の水質改善などにつなが

っていることを伝えて、はっきりとしたイメージで持たせることが重要である。

- 下水道とのコンタクトポイントを増やしていくとともに、下水道を意識してアクションを起こすことが自分の生活に得があるという側面をアピールする必要がある。
- 国内でなく、外から見た時には気付きがある。国民が下水道をどう思って見ているかというソーシャル・リスニングが少なく、まずは、実態を掴むことが重要である。

#### ■ 産業の活性化

- 包括的に産業界が関与していくことを産業界に期待していくスタンスは大切であり、また、産業界と新技術のつながりを明確に打ち出すことも大事である。
- 人材の確保のためには、雇用環境が重要であり、そのためには、安定した作業量や発注量の確保が必要である。
- 自治体側に立案、評価や発注ができる人材が必要であり、確保できない場合は、公的主体の評価者（第三者機関）の確保が必要である。

#### ■ 水・資源・エネルギー、雨水管理

- 水・熱・エネルギーの回収・活用は、単純に広域化というわけではなく、供給コストがかかることから適切な回収・供給のサイズがあるはずである。
- 雨水については、治水（河川）との関連は避けて通れない。雨水排除と河川の関係について書くべきである。

#### ■ 総論、その他

- 「進化」としての「変態」に違和感がある。「変態」とは、生物が成長していく過程で、変態しないと達成できない成長のプロセスであり、「進化」は決められた成長（使命）から違う進化（使命）に移っていくことと整理するとわかりやすい。
- 「持続」という言葉が、同じ目的をやるにも形を変えないといけないという部分と全体をカバーしている目標にも使われており、言葉の選び方に混乱がある。
- 汚水が最適化で、雨水がスマート化というのはわかりにくい。最適化と進化の関係がわかりにくい。「トータルシステム」というワードを記述できないのか。
- ビジョンをわかりやすく伝えるために、絵、キーワードやキャッチフレーズが必要であり、下水道が未来に向かっていくことを表す魅力的な言葉があればいい。
- 新下水道ビジョンで現行下水道ビジョンとのつながりを示すべきである。
- 第2章の10項目と第3章に書かれているそれぞれの施策の対応関係があると、ビジョンがどういうふうな形で実現できるかがわかりやすくなる。
- 自治体側に協働するイメージがよく伝わらないので、小さい自治体に関係ないという意識を持たれないように、如何に理解してもらうかの工夫が必要である。
- 中小自治体に対して、やるべきことと選択しながら実施してもらいたいことを明記すべきである。
- 自治体に対して、国がめざす方向を明確にし、利用できるものにしてほしい。
- 各施策の課題を全て抽出して、時間を決めて誰が責任をもって実現させていくのかを整理するとともに、その課題をPDCAで解決していくことが必要である。
- 中期目標については、施策メニューをブレイクダウンさせて、具体的な数値化あるいは数値目標に近い事業量等で表現すべきである。